

第5回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録

- 開催日時：令和2年3月26日（木）13:30～15:00
- 開催場所：香南市役所 3階第4会議室
- 出席委員：受田浩之委員長、田内修二副委員長、竹内 淳委員、宮崎利博委員、小松さやか委員、田中愉久委員、長崎篤史委員、國松美紀委員、土居秀臣委員
- 事務局：岡林商工水産課長補佐、前川こども課長、岩田地域支援課長、野島農林課長
西内企画財政課長、浜田企画財政課長補佐、田淵、嶋内

【次第】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
 - (1) 第2期香南市総合戦略の概要（素案）について
 - (2) 第2期香南市総合戦略（素案）について

- 委員長

参考資料1をご覧くださいと、策定員会で議論された内容が整理されている。

次の世代を担っていく子どもたちにとって、いかに総合戦略が重要な意味を持ち、子どもたちに何をもちたかといった視点で、少しずつこれまでの総合戦略の雰囲気が変わってきているところがお分かりいただける。これまでは、主語が「香南市」という感じであった。今回は、それを「子どもたち」という主語のもとで何をすべきか。その子どもたちが暮らしていく香南市として全体を描いて行こう、というところで主語を変えていくことは相当劇的な変化かもしれませんが、多くの皆さまのご意見がその方向に進んでいたように感じている。その内容を反映していただくと、横断的な目標の中に、子どもたちに対して、より何を訴求し、その子どもたちが感じる具体的な変化を数値的に表していくにはアンケートが必要になる。その定点の観測によって施策を改善していく。そういう一連のサイクルを作っていくというところで、一つはアンケートを考えてくという点が、資料の説明の中に取り込まれていた。こういった点が第2期総合戦略の特徴になり、更にそれ以外のところも含めて委員の皆さままでからご意見ご質問をいただきたい。

最後の仕上げに徐々に近づいているということで、その点をご理解いただいたうえでこの改善を具体的に取り掛かっていけるのではないかと。

- 委員

自分の関係している分野については納得できる結果が出てきている。農業分野についてはコツコツと変えてきて、まとまってきた。香南市の農産物として特化している山北みかんやエメラルドメロンだけ表にでてきているので、その他にもあるということ

をどこかに欲しい。

■委員長 第3回策定委員会の中で委員からご意見いただいた、「土曜日に学校が休みになる週休2日制の開始にあわせて、地域をしっかりと学ぶ、そういう場を自治体ベースで作ってこう」という話が繋がっていつている。

農業に関しては品目としてより広くといったニュアンスが求められるのではないかと。今のご意見が反映されたら良いと思う。

■事務局 産業振興計画の中で話し合い、意見を反映させていきたい。

■委員 第4回は欠席していたが、参考資料を見させていただくと活発に意見が出されていたと思う。この会は、本当に意見を持っている・情報を持っている方が参加してくれたのではないかと。我々の知らない情報もたくさんあったし、その捉え方についても非常に前向きに捉えて、こうしていったら良いという意見を持ってきている。市のさまざまな会に委員として参加してるが初めてだと思うし、戦略そのものもよくまとまっている。

総合戦略の資料2を見ると、水産業の目標数字が下がっている点については、これだけは守ると解釈するが、ホームページの閲覧回数と空き家バンクの登録数が基準値から下がっている。なぜ下げたのか理由を書いておかないと疑問がでてくる。

全体の感想としては、非常に新しい良い方向に行っていると感じる。

■事務局 アクセス回数はホームページやいろいろな媒体を活用しているが下がり気味となっている。60,000回を超えて推移はしており、67,000回を超えた実績から目標の数字を70,000回に修正する議論もあったが、65,000回にした。

空き家バンクについては、調査を実施し、実績につなげているが、去年は調査が進まなかった点もありこの数字となっている。

■委員 基準値が上にあるのであれば、下げずに上げる方向でいかなければいけないと思う。目標値を再度修正していただきたい。空き家バンクについても調査の取組み開始が遅かったということだが、令和6年度の目標値としてはもう1度考えて欲しい。

■副委員長 一次産業の場合、漁獲量などの基準値は定かでないことから、5年間の平均値から県の指標である10%アップという形で目標値を設定している。しっかり理由を書かせていただきたい。空き家バンク登録数、耐震診断の指標もありますので、再度事務局と担当課の間で話をさせてもらい、現況より多い目標値が設定できるところについては上方修正をさせていただき、明確な理由があるものについては明確に理由を記入するよう事務局と修正していく。

■委員長 極めて重要なご指摘をいただいて、市としてもそのご意見を踏まえて、部分の修正を

図っていただきたい。また、基準値よりも目標値が下がる場合には、但し書きやコメマークなどを付けて、何故なのかといった説明を付ける配慮が必要である。

■委員長

前段は策定委員会に関して、これまでとまったく違う意見や意欲的に未来志向の話を相当していただき、そのプロセスに関して価値があるという意見をいただいた。より多くの人を巻き込んでいくということでは、市民と将来の香南市を背負っていく方々のものであるから当然考えないといけない。今までは、ともすれば組織の代表者が集まる、そういった作りになっていたが、かなり思い切った構成を考えていただいた。

■委員

各分野で目標値が決められ、P D C Aサイクルを行政の担当者がやっている。今年も各分野でいろいろな事業があり、その中で指定管理や委託業者もあるので、そこにも「どういう目標でこういうことをやりなさい」と行政として指導していくことができるのではないか。

香南市マリンスポーツセンターの指定管理を受けており、夜須川の河口補強工事の入札のとき、高知市の企業が入札し、そこが素晴らしいと思ったことある。工事が終わった時に「何か地域の為にお仕事ないですか？」と聞かれ、ボランティアで浜の掃除をしているので、来てくださいと言ったら、10人が日曜日の休みの日に集まり、清掃活動をしてくれた。ヤ・シィパークでも同じように砂浜のゴミを拾ってくれた。香南市の受注している企業や指定管理、委託している所全部に共有するというか、「何かやってくれ」と言っても良いのではないか。

■委員長

とても重要な情報をご議論いただいた。入札や指定管理者の指名をやる時に選考の基準を設けて、その中にボランティアをやるなど、いろいろな意味で企業としての地域に対するCSRということを理念に掲げているかどうか、そういう点は考慮していても良いと思う。

■副委員長

まず、入札制度については基本的な一般的なものとしては金額である。ただ、そういった評価方式も少しずつ増えてきており、その中では地域貢献点といった欄がある。

例えば、消防団員が多くやボランティア活動をしている、防災協定を結んでいるなど、総合的にその点と金額で評価して入札業者を決定するといった方法は、金額の大きなものについては香南市も少しではあるがやり始めたところです。ただ、技術点などさまざまな点があるので全てをそれで行うということは無いし、絶対数でいうと少ない。基本的には金額ということになっている。あと、指定管理の場合は基本理念を作成・提出していただいている。その中で、利用者数や売上金額、宿泊人数などとあわせて、さまざまな評価項目を作っており、それを毎年評価していただいているところが実情です。現在、なかなか全てまでとはいっていないが少しずつこういったケースやこういった考えを入れていければ良いと思う。

- 委員長 好循環が生まれていけばよいと思う。総合戦略において横断的な目標としてSDGsのことが書いている。持続可能な開発目標として、委員の言われたことは、「14番 海の豊かさを守る」「15番 陸の豊かさを守る」の環境保全に相当する。この横断的な目標としてSDGsを掲げているとすると指定管理や入札においてSDGsの観点はどう提案者が位置付けて、そのことをもって総合戦略にどう貢献していったというのが企業の体質・本質的なものであると客観的スコアをつけるということ是可以する。施策を行政が担っておられる仕事と関連して好循環を出していくためにと考えると非常に良いかもしれない。
- 副委員長 横断的な目標の中にもあるが、「ぜひ工場を社会見学に来て欲しい」とか、「技術を子どもたちにも見てもらいたい」など、いろいろな面から既存企業さんからの意見をいただきながら進めていかなければならない。
- 委員長 ぜひ、今回意見を生かしていただいて、すぐにこうしましょうという形には持っていけないところはあるかもしれないけれども、思いの部分は十分伝わっている。今後そういう思いをどういった形で反映させていくべきか、その具体に関しては継続して協議していただけたらと思う。地元の企業さんがさまざまな地域のさまざまな公共的な事業にどう貢献していくか、相当大きな地域に対する経済的な効果と将来的に見た時に地元企業に対する思いをどれだけ地域が持ちうるかというところで、好循環に持っていくためには非常に重要なところですので、一気に難しいとしても地域内のことを考え続けることをぜひ提案していただけたらと思う。
- 委員 子どもたちが大学に進学する時に、香南市や高知県で学べる所の選択肢が少ないといったことで県外に出ると思う。私自身は県外に出ても良いと思うが、また就職になった時に帰ってきたいと思うようなメリットがないと帰ってこないと思う。知り合いの話だが、香南市が県下で一早く子どもの医療費助成年齢を上げた時に、子どもが卒業するまでは香南市にアパートを借りて、子どもが卒業した後、市外に出ていき家を建てたと聞いていた。メリットがあれば来るし、なくなれば出ていくので、香南市のメリットが分かるようにすることが大事だと思う。
- 委員長 いろいろなことを考えて議論しているが、1度も香南市から出すことなく定着させるという考え方はかなり苦しい。保幼・小中学校・高校・大学、選択肢が十分あっていろいろなニーズに対応できる環境がないとなかなか難しい。地域内の近くに大学があることは1つポイントではあるが、相当なオプション・多様性がないと受け皿にはなり得ない。一端出て、また戻ってくる。その部分が今回改訂された内容の中で一つのポイントになる。これで完璧ではないにしても、次世代を担う若者に魅力があるかということろを域外に出ても思い出して、やがてUターンあるいはIターンを伴うこともあり得るし、そういった意味合いで今回の総合戦略の改訂ができています。

もう一点、医療費の無償化の話は、各市町村で競争するようにアピールしているが、例えば企業では新しいアイデアを特許で保護して他のところに真似させないということが防御的にできるが、行政がやることは特許で権利化できない。いいアイデアが出れば出るほど結果が伴ってくるが、やがて誰もが真似しはじめる。なので真似しようにも真似できないところがどこにあるのかを考えなければいけない。財政的な基盤の部分で真似できないようにするか、これは非常に魅力的だがこれをご当地にとってどうか、高知県にとってどうか。香南市のコミュニティーや歴史・文化、自然環境などの真似しようとしても真似できない部分をその要素の中に落とし込んでいければ特許ではないがアピールできる。独自性をもっていかなければならないと思う。

■副委員長

医療費だけでなく、ずっと住んでもらうことが一番である。県外の大学に出ていったのちに帰ってきてもらうには、当然、仕事・環境・場所も必要。今回の一つの大きなテーマとして、帰ってきてもらうために努力をしていかなければならないが、子どものときから帰ってきてもらうように、「香南市にはこんな魅力があります」「良いことですよ」ということを、再度地域をあげて、市をあげて、子どもたちに分かってもらうということを横断的な取り組みとしております。委員長が言われるように、香南市も全国で1番先にやったという施策はなく、結局どこかがやったところを良いところを真似し、どの市町村もやり、順番に広がり、最終的にはそれほどやるならば国が施策としてやりましょうという形になっている。地域が持っているいろいろな特色を、子どもたちをはじめ、皆さんに共有するというのを再度やっていきたいと思っている。これが今回の大きな考え方になっているのかと思う。いろいろなアイデアをいただきたい。

■委員長

ぜひ、これこそ議論する内容です。「えっ」というような施策をどんどん打ち出していく。

先行者利益というものはあるが、最後はどうなるかということを考えると持続可能な施策であり、ゆるがない基盤のもとでやっていくということが絶対に必要で、そのためには、ここにあるものの強みは何なのかということをとータルで認識していかないとしっかりしたものは浮かび上がってこないと思う。常にこういう雰囲気ですることができるところを行政として、皆さまとどんどん対話して考えていって欲しい。

■委員

農業分野のことになるが、施策的には固まってきているので、目標値の達成を目指していくのが課題になると思う。要望として整備事業がいろいろあるが、補助率などもう少し緩和出来たら良いと思う。資材高騰があり昔からいうとやはりベースが上がってきているので、ベースの金額を上げていただいたらありがたい、というのはよく言われる話である。

■委員長

農業の生産者の方の具体的な要望があつて、それで行政としてどうすれば良いかということだと思うので、今の話は言い続けていただきたいと思う。もうこれでいいですと

すると改善が図られない可能性もある。資材の高騰の話もあったが、世の中の需要が、社会的な変化から変わってきているので、今度どのように受け止めていくか、相当深刻かつ知恵が必要になってくると思われる。

話は変わるが、生産物の価格についてはどうか。

■委員

コロナの影響で、柑橘では去年の値からいうと約6割の率しか売り上げがない。

■委員

農産物に関して、今一番苦勞しているのは花き。香南市の花きは葬式用が多いので、大きな影響は受けていないかもしれないが、市場の方からも出荷停止の通達が来ているところもある。

■委員長

こういう状況は予想できない。地域において価格が値崩れしていくことを、どういう風に持ちこたえていくか。新たな運動を展開する必要がある。

■委員

質問になるが、基本目標1の「商店街等の活性化等にむけての取組み」について、いま野市町・赤岡町の商店街が寂しくなっているが、どのような内容か教えていただきたい。

資料2「ヤ・シィの特産品売上額」について、目標値が今の基準値からいうと倍以上違う。計画されていることがあるのか。また、天然色市場の現在の状況を教えていただきたい。

■事務局

商店街の活性について、来年度から商店街の振興計画を作って対応していく。内容は、野市町に動物園とアクランドがあり、加えて来年度から動物園の近くにワインの蔵酒所ができると決まったので、新たな観光地ができる。そこと連携して人を呼び込みたい。

もう一つ、何度か野市の商店街を復活できたらということで、例えば、商店だけを補助するとかでは無く、イベントをする・空き店舗を活用して何かやってみよう、やっていたら人が集まり賑わいが取り戻せるのではないかと、ということで商店街振興計画の策定が必要であり、商店街の方や商工会の青年部の方などで委員会をつくった。その中で、賑わいワーキング部や空き家ワーキング部といった組織を分けて会を行い、計画の中に入れ込みたいと考えている。

P22のヤ・シィについては、ヤ・シィパークの直販所の2階にマナ・マナというお店をやっているが、当時つくった時に高い目標値を設定してしまい、毎年この評価をしているがなかなか届いてない状況です。

天然色市場については、一昨年4月に閉めてから約2年が経過して再募集を行っている。3社から手が上がったが、3社とも決定にならなかった。今後、再度募集していく、それとも市の持ち物として管理するか、といった議論をこれからしていきたい。

■委員長

先ほどの、野市の商店街については前回からいろいろアイディアが出てきており、点

が明確に点として広がってきているものがある。それを線にして面にしていく。その工夫が求められている。前回、ザルツブルグの話が出てきていたが、ヨーロッパでこういった場合に絶対にする手段が1つあって、それは「その面にしたいところを絶対に車を入れない」というやり方。その一定のエリアは車の乗り入れができない形にしてしまう。公共の交通機関としては、電気のEV自転車を走らせる、業者の方には乗り入れを許可制にする、そうすると、大体市民から文句が出るが、やってみてその後どうなるかという、「やって良かった」と必ずなる。その理由は、滞留時間が伸びるからである。車で来た人は、点と点を素通りするので商店街が発展しない。滞留時間を延ばすためには歩くしかなく、これによって滞在時間1時間あたり約1,000円の消費が見込まれるため、1,000人を1時間この中で滞在させると100万の売上が見込まれる。こういった戦略で野市のエリアを、例えばアクトランド、動物園、井上ワイナリーを結んでエリアを指定する。これが一般的なやり方で、やり方として正解が見えていてそれをやるかやらないか、できるかできないかである。

■委員 以前に商店街筋を「ちんどん祭り」で歩行者天国をやっていて、今、香南のちんどんクラブが復活していて、商店街の計画を商工会と話し合っている。常時、歩行者天国にすることは難しいので、一時期歩行者天国にする、そういった話は中でしている。

■委員長 一時的なのか、恒常的なのかというところで、そのまちの価値を決めてしまう。おそらくそこまで踏み切らなければいけない。もちろん一朝一夕でできる話ではないと思う。ゾーニングもあって、まちづくりランドデザインでもゾーニングの話をしている。

■委員 県の産業振興推進事業補助金を出すにあたって、さまざまな企業から手が上がって精査している。経済活動に対する補助金になるので、一定の事業計画に基づいたものを審査会で認めたという形にしている。立てた事業計画の目標値を達成していただいて、数値に是非とも届いていただきたい。県の地域アクションプランに対する取り組みを我々県はフォローアップしているので、ぜひともそうなるように事業を頑張って取り組んでいただきたい。

続きの話になるが、高知県の商工労働部で「商店街振興」に取り組んでいる。高知市が一人勝ちで、他はどの市町村の商店街も衰退している。人の流れが減り、空き店舗が増えている。商工労働部的には、各地域において基本的にいつでも買い物ができる、そういった商店街を復活させなければいけないということで、商店街振興計画をそれぞれの市町村で立ててもらいたいという中で、私が担当している物部川エリアでいうと、土佐山田のえびす商店街振興計画が今年度出来上がっている。南国市は、昨年度途中から振興計画をつくる準備をしていて、今月中にできる予定だった分が、年度を超してできる予定。南国も昔は商店街らしき形だったが、今はお店が点在していて、定期的に行っている軽トラ市などをもっと大きなものにしていこうということで、住民の方々が、50人程度の方が集まってワークショップをしている。アイデアが出すぎて実現不可能

なものもあるが、野市も来年度、協議会を立ち上げ、ワーキング組織をつくる。そこで野市のまちをどうしていきたいか、当然野市の今のまちの素材を生かすだけでなく、周囲のエリアにある観光素材を活用して面的な取り組みとして繋げられるようなワークショップ・協議会にしていきたい。私もそのメンバーに入っていくので、そういった形で助言をしていきたい。

■委員長

産業振興計画の中に各部会があり、横断的に取り組む素地もできている。香南市においては、相当さまざまな方々から「自分たちの町をどうするか」が当事者として議論され、相当広がってきているように思う。この点については、事務局にベンチマークしていく例はないかということで、佐川町の総合戦略をつくるのに相当ワークショップを行った事例がある。多くの町民が入って作り込みを行い、最後にアイデアが具体的になってくると「やるのは自分たちですよ」ということが明確になる。委員からも意見いただいたように、具体的な話をどう盛り込んでいくかというところで、5W1Hが明確に見えないところがあり、特に「誰が」を描いていないので結果的に伸びてなく、目標値に達しないようになってくる。「誰」の部分はまちの中にいる市民が前提で、その方々を当事者として具体的なアイデア出しのところから参画していたければ、やるのは自分たちだと意識付けがされてくるのではないかな。

これを行政の方に丸投げして、行政に「全部やってください」という話だと、成立しない。行政の方も市民の方に「アイデアやこういったKPIを立てたのでやってください」といっても市民の方もやれることやれないことがある。この分担の部分は、この会を通じてどんどん具体的になってきて、そういった点が議論を重ねるにつれて、相当見えてきたと思う。

■委員

資料2のP25「農業環境の整備」で宅地造成の目標箇所数が1箇所とある。令和6年度に事業に着手するとあるが、完成ではなく着手するということか。

■副委員長

令和2年に着手して、令和6年には一定の区画が出来上がっている。着手する造成箇所の全てのエリアが区画として出来上がっているイメージではなく、完成予定区画数のうちの、いくつかの区画が出来上がっている。そういう目標で、1カ所と目標を標記した。

■委員

例えば、インバウンド事業をまちとして取り組んでいるところで目標を1本化してしまおうと、今とてもしんどいと思う。こういった想定外のことが起こるとも考えて、想定外のことに対応するものがあるか？

■委員長

なかなか無い。

良いプランがあれば教えてもらいたい。ただ、委員がいわれたように、今インバウンドが壊滅的なダメージを負っているし、これからの負い続けると思う。高知県の場合は

幸か不幸か、「これから」という所だったので、ある意味そこに依存しているまちから見れば比較的影響は少ないかもしれない。「Bプラン」というのは金融でいうところの「リスクヘッジ」になり、ポートフォリオの戦略にあたる。どれも損失を被るところはあるが、トータルで見れば全体性で生かされる。

■副委員長

Bプランは無いのが実情。ただ、全体のプランではなく土地利用などでいうならば、東南海地震が起こった後を想定したまちづくりの在り方というのは、早いうちから一定「こういうのが良い」という形やその土地の使い方を考えておくと、2年なり5年なり復興が早いといったデータ根拠もあるので、そういった事は念頭に置いて考えていけば良い。ただし、まだそこまで具体的なものはない。

■委員長

「まちづくりグランドデザイン」のなかで東南海地震での津波の襲来に備えてBCP的なエリアの話や、ゾーニング自体がこうあるべきだといった議論がされている。ただ、今を「こうあるべき」に持っていくためには、乗り越えるべきさまざまな課題があるので、それを災害が来て、やむを得ずそうするのか、災害前に対応して、移転を踏まえて進めていくのかは、この点は住民の皆さんが議論し、行政と一緒に理解し合いながら進めていかなければならない。

取りかかりの時間軸で見えていって、とても良いものが出来上がり、それが永遠に価値を持っている、ということはあるので、ぜひ皆さんのDプランを考えていただきたい。

パブリックコメントを市民の皆さんに求めていく。特にKPIの話は市民の皆さまから見ても疑問に思うところであるし、なぜ目標値が基準値より低いのか、当然そういったところで議論いただけると思うので、改善を図って、それをパブリックコメントの資料にさせていただくよう申し上げたい。

他の意見についても、反映できるものについては改善を図るようお願いする。

パブリックコメントの資料としては一部改善を図っていただいて、それ以外のご意見を反映するとしてよろしいか。

■委員

異論なし

4. その他

5. 閉会